

説明

『相互貸借管理機能の御説明』

豊田満氏（日本電気株式会社 公共ソリューション事業部）

本日御紹介させていただく NEC の相互貸借関連のパッケージは、静岡県立図書館を始めとして、静岡県内の公共図書館で御利用いただいているシステムです。他にも、いくつかの県立図書館で採用していただいています。

本日のテーマは、相互貸借に関する業務のシステム化ということですが、相互貸借のシステムをより良く活用できるように、いくつかの機能を追加で御提供しています。その中の一つが、「図書館ポータル」というもの、もう一つが「横断検索」です。この横断検索は、相互貸借システムとシームレスに連携する形で御利用いただけるものを用意しています。



【図書館向けサービスの提供イメージと概要】

まず最初に、図書館ポータル機能について御紹介させていただきます。県内の図書館から、相互貸借の図書館向けのサービスを御利用いただく際は、誰でも利用できるというものであってはいけませんので、まず ID とパスワードの認証から始まります。図書館ポータルのログイン画面は、静岡県内の公共図書館、大学図書館向けに提供するサービスを利用する入り口としてブックマークされているもので、県立図書館が発行した ID とパスワードによりログインをして利用することができます。サービスを利用できるのは、自治体等の組織単位ではなく、分館を含めたすべての図書館に ID とパスワードを発行しています。

静岡県の「おうだんくんポータル」は、県立図書館を管理者として提供して

いる各種サービスの入り口になっています。ここでは、それぞれ、「おうだんくんサーチ」という横断検索、「おうだんくん ILL」という相互貸借管理システム、「おうだんくんコミュ」、「総合目録」、「静岡県の図書館」といったサービスがありますが、今回は、「おうだんくんサーチ」の横断検索と「おうだんくん ILL」の相互貸借システムについて御説明させていただきます。

【図書館ポータル】

「おうだんくんサーチ」と「おうだんくん ILL」を御紹介させていただく前に、「おうだんくんポータル」について簡単に御説明させていただきます。「おうだんくんポータル」の役割の1つとして、サービスを提供する入り口があります。ポータル画面上部にあるヘッダーアイコンをクリックすることで、横断検索や相互貸借管理など、それぞれのサービスが起動します。

その他にいくつかタブがありますが、それぞれに役割があります。

まず、「ホーム」というタブには、県立図書館から各館に対するお知らせ情報が、最新のものから順番に表示されるようになっています。それぞれの情報が一行ずつ表示されますが、それをクリックすると、より詳細な情報を確認することができます。これは、随時リアルタイムで更新することができますので、県立図書館ですぐに知らせたい事項が出てきた場合には、その場で登録していただくと、その都度すぐに画面上に表示されるようになっています。

画面右側には、「おうだんくんコミュ」の情報表示枠があります。これは、SNS (Social Networking Service: コミュニティ型ウェブサイト) のサービスで「新着情報 (最新の書き込み)」を表示します。SNS ですから、それぞれの図書館が関わっているグループごとに、必要な情報が随時コミットされています。

画面下部は、県立図書館が提供するリンク集です。これは、参考ページのリンクや県立図書館のその他サービスへのリンクといったものが配置されます。このリンクについても、県立図書館で自由にカスタマイズすることができるようになっています。また、この画面には「おうだんくんサーチ」の簡易検索機能 (窓) があります。検索文字列を入力して検索することで、横断検索、もしくは県立図書館の蔵書検索を行うことができます。もちろん、簡易検索窓から横断検索を行うことで、それぞれ相互貸借にシームレスに繋がるといったことも可能になっています。

さらに、資料の通知一覧という項目があります。県立図書館からいろいろなフォーマットの書類を各図書館に提供する、といった機会が多いかと思いますが、そういったものを PDF 化し、ここから自由にダウンロードできるようにしたものです。これも必要なものを随時アップし、ログインした図書館がダウン

ロードすることで、いちいちメールに添付して送る手間を省く、という使い方ができます。

この他に、業務リンク、マイページというものがあります。業務リンクは、県立図書館から、お知らせ・連絡事項以外で必要と思われるもののリンク集、例えば国立国会図書館関連のリンクや、蔵書検索に特化したページなどのリンク集として、県立図書館から提供できるものになっています。マイページは、ログインされている各図書館が自由にカスタマイズできるページになっています。ここで必要なリンクを付け足したり、RSS（RDF Site Summary：ウェブサイトの更新情報をまとめて、配信するためのフォーマットの総称）の情報を取り込んだりすることができます。

これだけ見ると、この「おうだんくんポータル」というものは、単なるリンク集的なものであり、かつ、お知らせ情報を主体とした掲示板的なものに見えるかもしれません。しかし、「おうだんくんサーチ」や「おうだんくん ILL」、「おうだんくんコミュ」といったサービスを単独で使う場合は、それぞれログイン ID とパスワードによる認証が必要になります。このポータルを通さず直接利用することもできますが、その場合、それぞれのサービスを利用するごとに、毎回ログインしなくてはならないという手間があります。この「おうだんくんポータル」を経由して利用していただくことによって、ログインの操作を一回で済ませ、ここから直接起動することによって、毎回それぞれのシステムにログインすることなく利用していただく（シングルサインオン）、という対応をしています。これが、このポータルの目的です。

【横断検索「おうだんくんサーチ」】

次に、横断検索＝「おうだんくんサーチ」について触れさせていただきます。横断検索は図書館専用ということではなく、一般利用者にも利用していただけるサービスです。そのため、わざわざ「おうだんくんポータル」から起動して使わなくてもよいのではないか、と思われるかもしれませんが、「おうだんくんポータル」を経由することによって、一般利用者には使えない機能である、相互貸借システムへのシームレスな連携が可能になります。

横断検索について、簡単に御紹介させていただきます。まず、検索 DB（対象図書館）が地域ごとにグルーピングされています。静岡県の場合は、県立、東部、中部、西部と、エリアごとにグルーピングされていて、これが公共図書館グループになります。この他、公共図書館以外に大学図書館、Amazon や Google といったインターネット系の書籍検索サイト、図書館以外であっても検索機能を提供しているところであれば、システムでその検索機能を解析して、検索先

として追加できるようになっています。静岡県立図書館の場合、国立国会図書館、CiNii（サイニィ：国立情報学研究所論文情報ナビゲータ）、Google ブックス、OCLC（Online Computer Library Center, Inc.）の他、Amazon や bk1（現 honto ネットストア）といった書店サイト、それから静岡県関係のサイトとして、静岡県の公報や県民サービスセンターなども含めて検索できるようになっています。

検索条件は、書名やキーワード、件名、著者といった検索項目を指定することができます。また、文字を入力する際、キーボードから直接入力できないような文字—例えばハングル文字を入力するなど—も、「文字パレット」を使い、キーを画面に出してマウスの操作で入力する、ということもできるようになっています。

検索時には、検索先として公共図書館が全選択された状態になっています。このまま検索すると、県立図書館を始め、県内の図書館すべてを対象に検索することになりますが、よく利用する図書館を検索先として、それ以外を検索先から除外しておきたいといったことが多い場合、必要なところだけチェックして「チェック保存」をすることで、次回からは必要な図書館だけがチェックされた状態で、検索を始めることができます。もちろん、その後でチェックを追加して、続けて検索するということもできます。それぞれ利用される方が、本当に必要な検索先だけをチェックしておくこともできるようになっています。

検索結果は、最初に結果が返ってきた図書館の情報から、順次表示されていきます。画面の左カラムには各図書館の図書館名と検索結果件数が表示されます。太字で表示されている図書館名が最初に検索結果が返信された図書館で、結果が中央に表示されます。さらに図書館名をクリックすると、それぞれの図書館の検索結果が表示されます。また、検索した文字列はハイライト表示されて、どの部分がヒットしたのかがわかるようになっています。この他、画面下部に、出版年ごとに集計した件数や著者名ごとに集計した件数の結果をまとめて表示することができ、これをクリックすると、それぞれの結果が再表示されます。

公共図書館の検索結果の他、例えば、Amazon や bk1 など、書影を表示しているサイトの場合は、検索結果の横に書影を含めて表示することができます。その他、絞り込みの結果表示や、その結果の保存といった機能も御用意しています。

検索結果は、各図書館の Web-OPAC の検索結果をそのまま表示しているのではなく、横断検索画面を編集して、図書館ごとの検索結果を共通のイメージで、分かりやすく表示できるようになっています。

【横断検索結果の同定表示と相互貸借管理システム連携】

ここから、相互貸借システムとの連携について説明させていただきます。通常、横断検索は、それぞれの図書館の Web-OPAC の結果をそのまま表示しますが、御紹介している横断検索は、検索結果を同定した上で、各図書館の所蔵情報を表示することができます。

同定処理の元になっているキーは ISBN です。同定元となる書誌と同じ ISBN を持つ書誌情報を採取し、それを基に、それぞれの図書館の Web-OPAC で表示している所蔵情報を取り込んで、横断検索側で編集して表示しています。編集結果には「貸出中」「貸出可」といった所蔵状況も表示することができるので、横断検索だけで各図書館の所蔵状況を確認することができます。

「おうだんくんポータル」から横断検索を起動した場合、所蔵情報を表示すると「ILL」というボタンが表示されます。このボタンは、一般利用者が検索する場合には表示されません。「ILL」ボタンを押していただくと、別ウインドウにより相互貸借のシステムが起動しますが、所蔵状況を確認してどこの図書館に対して相互貸借依頼を行うのかを、チェックボックスにチェックするだけで、依頼先を決めることができます。

【相互貸借管理システム「おうだんくん ILL」】

「ILL」ボタンを押すことで表示される相互貸借システムの画面（借受申込画面）は、いわゆる「カート」画面なので、この時点では相互貸借依頼はされていません。複数の依頼資料がある場合、横断検索を繰り返し行い、依頼情報を溜め込んで、まとめて相互貸借依頼を行うこともできます。

借受申込画面に表示されている書誌情報は、横断検索で選択した書誌を相互貸借システムに引き継いで自動的に表示していますので、書誌を入力する作業を軽減しています。

この他、横断検索で所蔵情報にチェックをして選択した図書館の名前が表示されます。依頼書誌、依頼先図書館に問題がなければ「データ送信」というボタンを押すだけで、最終確認画面が表示され、相互貸借依頼情報が依頼先図書館に通知されます。

これだけでも操作としては問題ないのですが、依頼情報を補足したい場合は、借受申込画面に表示されているタイトル一覧に設定されているリンクをクリックし、詳細情報画面を表示させ、依頼内容を補足することができます。例えば、「館内閲覧ならば不要」「貸出中の場合は予約をお願いします/予約は不要です」といった貸出上の条件を入力したり、依頼に対して、何らかのコメントを付け

たい場合は、定型コメントからの選択やフリー入力枠へのコメントの入力ができ、依頼先図書館に伝えることができます。その他に、「依頼館専用メモ」というものがあります。これは依頼館側専用のメモ欄で、依頼先図書館には伝わらない情報です。

ここまでの一連の流れが、図書館ポータルから横断検索を表示して ILL システムに連携し、依頼先図書館に依頼を行う手順になります。

しかし、中には、横断検索で検索したが見つからない、あるいは雑誌がなかなか検索できない、検索はできるが巻号単位で確認できない、といったこともあります。その場合は、ポータルの画面から直接「おうだんくん ILL」を起動して、借受申込をすることができます。借受申込画面で「データ新規作成」ボタンを押すと、新しい依頼情報を登録する画面が表示されます。この画面でタイトルや著者名、出版者、出版年などの書誌情報を入力した後、依頼先図書館を選択して登録をすると、カート画面が表示され、データを送信して依頼先館に依頼情報を送る、という流れで、借受依頼の申込を行うことができます。

依頼先館に依頼情報を送る「データ送信」ボタンを押した時点で、依頼先館には2つの方法で借受申込依頼が通知されます。1つは、依頼先館が登録しているメール・アドレス宛てに、タイトルや必要に応じて入力したコメントなどを一通のメールにまとめて自動送信することによる依頼の通知です。例えば、三冊依頼する場合、三通のメールが届くのではなく、一通にまとめて一回の送信で依頼を送ることができます。

もう一つは、借受依頼情報を画面で確認することです。各図書館は、依頼をする側にも、依頼を受ける側にもなるケースがあります。そのため、依頼を行った状況や依頼を受けた状況を画面で確認できるように、「受付・貸出」「受領・返却」という二つの大きな選択肢が、メニュー・バーに常に表示されています。

「受付・貸出」を選ぶと、受付けている依頼が表示されます。「受付・貸出」「受領・返却」を誤って操作しないように、画面の背景色も変えています。依頼メールを受信したら、あとは定期的に「おうだんくん ILL」の画面を確認することで、どこの館からどのような依頼が届いているのか確認することができます。

また、「受領・返却」では、依頼している情報が図書館ごとに出てくるようになっています。図書館ごとの一覧画面では、依頼の受付状態を確認ことができ、処理をしていないものは「未読」としてカウントされますので、依頼先館を選んで画面を開くと、その館とやりとりをしている情報の一覧が表示されます。この中に「依頼状況」というものがあり、現在どのような状態になっているのか確認することができます。画面の「相手館図書館」という項目に「○」「×」を付けることで、依頼先館の確認状況を表しています。これから、操作しなければいけないことがある場合は、自館の方に何らかの印が表示されます。

×は、まだ何も確認していないという意味で、実際に画面を開くと×が○に変わる動きになっています。また、この×は、ステータス情報との組み合わせで、相手が確認しているかどうかも分かるようになっています。

依頼に対する回答の情報は、「送信内容」から、「受領」「借受拒否」「送付済み」というような、この後に行う処理を選択してデータ送信すると、メールとともに相手図書館に情報が送られ、この後は相互にキャッチボールをするようなやりとりになります。最終的には、資料が貸出館に返却された時点で、「借受終了」にステータスが変わり、依頼のやり取りが終了します。

相互貸借システムにより、FAX や電話連絡によるやり取りが全くなくなる、ということではないかもしれませんが、同じ画面を定期的にチェックしながら、基本的には、この画面の操作だけでやりとりができるような運用をしていただいています。

【終わりに】

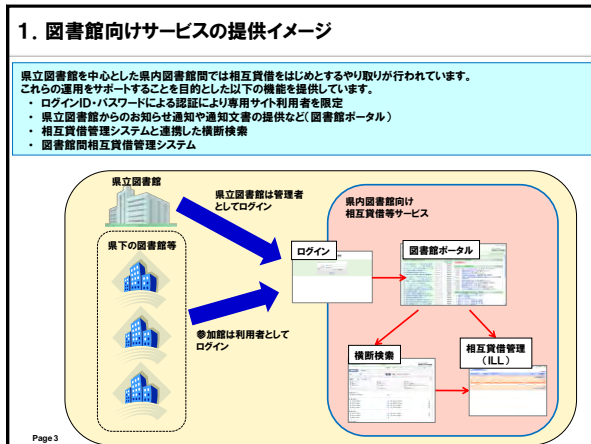
相互貸借システムにおいて、今後検討していかなければならないこととして、依頼を受けることが多い図書館が、より簡単に操作できるような仕組み、例えば、依頼を受けている分だけをまとめて抽出して一括で回答するとか、あるいは、返ってきた本のバーコードを読むだけで、まとめて貸出終了の状態にするなどの仕組みなどを、パッケージとして強化していかなければいけないと考えています。

最後に、御紹介した図書館ポータル、横断検索、相互貸借システムは、クラウド・サービスで提供しています。県立図書館が、例えば計画停電、サーバーや何らかの障害があって運用が止まってしまった、ということが起きたとしても、このサービス自体は影響を受けずに、インターネット経由で使うことができるシステムになっています。基本的には県立図書館が管理者として運用するものになりますが、障害に強いシステムであることを付け加えさせていただきます。



目次

1. 図書館向けサービスの提供イメージ
2. 図書館向けサービス概要
3. 図書館ポータル画面イメージ
4. 図書館ポータルの機能
5. 横断検索のイメージ
6. 横断検索の機能
7. 横断検索の画面イメージ
8. 検索結果の同定表示と相互貸借管理システム連携
9. 相互貸借管理システムの機能
10. 相互貸借管理システムの操作イメージ



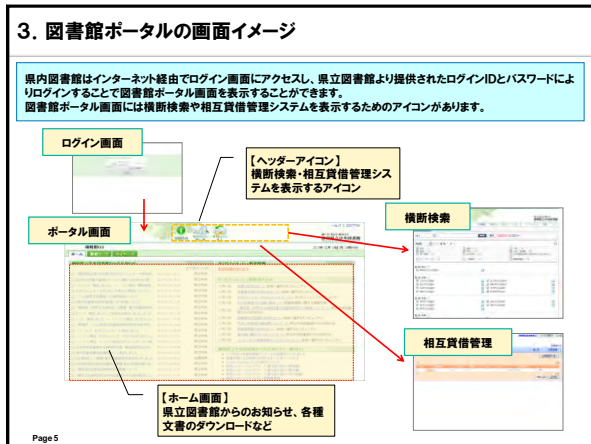
2. 図書館向けサービス概要

図書館ポータルにログインすることで県内図書館向けサービスの利用をすることができます。県内図書館間相互貸借システムもこちら利用します。

【主な機能】

- ① 県内図書館向けサービスを提供する図書館ポータル ログインIDとパスワードによる認証がされた図書館(参加館)向けに提供するサービス選択メニューの役割を果たす機能です。 サービス選択の他、県立図書館から県内図書館向けのお知らせの表示やログインした図書館によりメニュー画面のカスタマイズを行うこともできます。
- ② 横断検索機能 県内図書館等を対象とした横断検索は一般利用者向けにも提供可能なサービスですが、図書館ポータルより横断検索を選択することで相互貸借管理システムとの連携機能が追加されます。
- ③ 相互貸借管理システム(ILLシステム) 県内図書館間で行われる相互貸借において貸出側、借受側それぞれより依頼情報の更新を行い、相互貸借の状況管理を貸出・借受図書館間で直接行うことができます。 また、図書館ポータルから表示した横断検索を利用することで相互貸借依頼を行う資料を検索することができます。検索結果をそのまま相互貸借依頼情報として登録することができます。

Page 4



4. 図書館ポータルの機能

図書館ポータルは横断検索や相互貸借管理システムを利用する際の入り口となります。また、図書館ポータルから県立図書館のお知らせ情報表示や各種リンクの設定をすることができます。

【図書館ポータルの主な機能】

(ヘッダーアイコン)

- ・ 県立図書館からのお知らせ情報表示
- ・ 「横断検索」「相互貸借管理機能」「図書館情報登録システム」の各機能を呼び出すリンクアイコン

(ホームページ)

- ・ 県立図書館からの最新お知らせ情報表示
- ・ 県立図書館WebOPAC、横断検索の高機能検索受付
- ・ 県立図書館からの通知資料(PDF等)をダウンロードするリンクの表示

(業務リンクページ)

- ・ 図書館が提供する各種サイトへのリンクページ

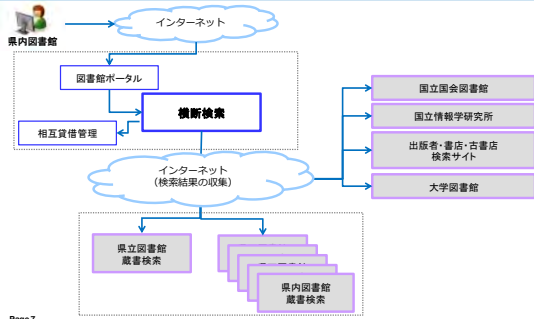
(マイページ)

- ・ ログインした図書館が自由にカスタマイズできるページ

Page 6

5. 横断検索のイメージ

横断検索は県立図書館をはじめとする県内図書館や県外機関、書店サイト、大学図書館等を対象として検索結果を収集し、統一した形式に編集して結果を表示することができます。また、図書館向け専用機能として横断検索の検索結果を相互貸借管理システムに連携することができます。



6. 横断検索の機能

横断検索は県立図書館のホームページより一般利用でも利用できるサービスですが、図書館ポータルより横断検索を表示することで、県内図書館向け機能が追加された状態で横断検索を利用することができます。

【横断検索の主な機能(一般利用者、図書館共通)】

- ・公共図書館だけでなく、大学図書館、各種検索機能を提供している公共機関サイト、書店サイト、ネット書店サービスなど様々な検索サイトを横断的に検索することができます。
- ・キーボード入力しづらい文字の入力を補助することができます。(文字パレット)
- ・よく検索されることを表示することができます。(人気語)
- ・書影を表示しているサイトについては検索結果に書影を付けて表示することもできます。
- ・よく使う検索先を保存しておくことができます。(検索チェックの保存)
- ・当日に行った検索の結果を自動的に保存して再度表示することができます。(検索ヒストリー)
- ・検索結果を独自に編集して、検索文字に該当する箇所をハイライト表示することができます。
- ・検索結果を累計して著者名や出版年ごとに集計して再表示することができます。(ファセットナビゲーション)
- ・検索結果に対して一括で検索を行うことができます。
- ・検索結果をhtml形式やExcel形式で保存することができます。
- ・検索結果を各図書館単位だけでなくまとめて表示することができます。
- ・横断の検索結果画面内で各図書館の所蔵状況を表示することができます。
- ・検索結果を選択して同じ書誌を持つ検索結果をまとめて表示することができます。(検索結果の同定表示)

【ポータルから表示した横断検索に追加される機能】

- ・検索結果からボタンを押すだけで相互貸借依頼候補として登録することができ、そのまま相互貸借依頼を行うことができます。
- ・近隣図書館などよく検索する図書館や専門書を持つ図書館など検索先のパターンを複数登録することができます。(マイサーチ機能)
- ・検索結果を保存していつでも参照することができます。(マイフォルダ機能)

7. 横断検索の画面イメージ

8. 検索結果の同定表示と相互貸借管理システム連携

横断検索の検索結果より任意の書誌を選んで横断検索内でISBNを使って同定表示することができます。同定表示結果には各図書館のWebOPACより所蔵情報を自動解析して表示しますので各図書館のWebOPACを表示せずに横断検索だけで所蔵状況を確認することができます。どの図書館に相互貸借依頼を行うか判断することができます。

さらに所蔵状況から相互貸借依頼先を選んでボタンを押すだけで、選択した検索結果の情報と依頼先情報を引き継いで自動的に相互貸借管理システムの画面を表示することができます。

9. 相互貸借管理システムの機能

図書館間の相互貸借においては借受依頼を行うところから依頼の受付、資料の物流、受取、返送、返却といったいくつかのステップがあります。相互貸借管理システムはそれぞれのステップごとに借受依頼を行う館(借受依頼館)と借受依頼を受ける図書館(貸出館)の両方から情報を参照・更新することができます。現在の借受依頼状況が資料単位に参照することができます。1つの図書館が借受依頼館や貸出館の両方になる場合もありますが、相互貸借管理システムは1つのシステムの中でメニューを分けて貸出情報、借受情報を参照・更新することができます。



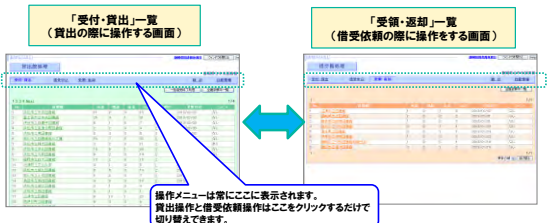
左図は相互貸借処理のやり取りに関する処理イメージです。相互貸借管理システムは左図のように「借受依頼申込」から「貸出した資料の受取」までのやり取りを相互に行うシステムです。それぞれの処理にある記号の意味は以下の通りです。

- : 横断検索で行う操作です。
- : 相互貸借管理システムで行う操作です。
- : 各図書館の業務システムで行う操作です。
- : 物流など資料の移動を意味します。

相互貸借管理システムでは ■ で示す操作を行うことができます。

10. 相互貸借管理システムの操作イメージ

相互貸借管理システムは借受依頼館と貸出館が相互に行う操作のやり取りをお互いに登録することでやり取りの状況を確認することができます。相互貸借管理システムの操作は貸出館用の「受付・貸出」と借受依頼館用の「受領・返却」に分かれています。1つの図書館が貸出館にも借受館にもなるのでどちらの操作を行っているのか常に明らかになるように、画面のイメージ色を分けています。



《質疑》

質問：三点質問があります。

一点目が物流関係のこと、二点目がサーチの時の貸出条件のこと、三点目がコミュニティの活用のごことお伺いします。

一点目で、物流の方法が宅配と月1回の協力車となっていました、ほとんどが宅配で搬送しているということでしょうか。その宅配料は、どこが負担しているのでしょうか。

二点目は、埼玉県は新刊図書について、貸出館が貸出条件なし、出版月から1か月以降、あるいは2か月以降から相互貸借を受け付ける、と条件を決められるのですが、静岡県でも同様の規定があるのでしょうか。

三点目が「おうだんくんコミュ」の活用で、自分の体験からすると、自分が書き込みをしているときはこまめに見ていると思うのですが、他の図書館の方や県立図書館の方は、その書き込みをどの程度見ていらっしゃるのでしょうか。例えば、「この本を探しています」という書き込みに、最終的に答えているのは県立図書館の職員でしょうか。

回答（剣持氏）：

宅配と協力車の頻度は、基本的に4週で1か月になりますが、協力車が月1回、各図書館を回りますので、残りの3回は宅配便ということになります。県立図書館の資料も協力貸出の資料と一緒に宅配しており、料金は県立図書館側で負担しています。（なお、宅配業務の人件費、使用するコンテナ等の購入費などは県図書館協会から支出しています。）

それから、貸出条件ですが、静岡県では基本的に刊行されてから6か月以内のものは対象としない、という規定になっています。ただ、先ほどから申し上げておりますが、貸出館側の都合で対応することになっていますので、人気の本は貸出対象にしないケースや、館によっては刊行からではなく、所蔵になってから6か月ということもあります。

「おうだんくんコミュ」については、確かにご指摘のとおりで、書き込んだ図書館と、その話題に興味がある図書館はコメントをくださいますが、関心が薄い館だと、こまめに返事が返ってこない、ということもあります。積極的に情報提供、情報交換をしてくださる図書館も固定化される傾向があり、それも課題と思っています。

ちなみに、一つの画面の中に「おうだんくん」の「コミュ」も「ILL」も「お知らせ」もありますので、相互貸借を依頼しようと思えば、その際に「コミュ」の新着情報の有無を確認できます。新着情報があれば赤字にな

って分かるようになっていきます。

あと、運用の中で活用されているのが、資料専門委員会の電子書籍導入についての論議で、これは2年間限定でテーマ設定されていますが、来年度の静岡県図書館大会で発表する予定で活動しています。「コミュニティ」で情報交換をするときのテーマ設定を、期間限定的なものにすると活発にできるのかな、とまっているところです。(最終的なコメントを誰が返すということは決めていませんが、なかなか返事が付かない場合などに県立図書館からコメントすることもあります。)

質問：宅配で県立図書館に届くものは、着払いなどで県立図書館がお支払いするのでしょうか。

回答（剣持氏）：

はい。市町立図書館から着払い伝票で届き、県立図書館から送るときは元払いです。(なお、個人の方が宅配で返却する場合は個人負担です。)

質問：今日の話伺って、貸出館の手間がだいぶ軽減されたということですが、相互貸借の依頼を受けても、結局自館のシステムに落とし込んでというか、「おうだんくん」の操作の他に、自館のシステムで予約等を一回かけなければいけないようにイメージしていました。よく考えたら、依頼の来たものを回収して、そのまま協力貸出しの処理をしまえばいいことに気づきました。その際、現状では各館によって、例えば前日の予約を一覧表に打ち出して棚に探しに行くとか、依頼が来るたびに個別に1冊1冊の伝票を打ち出して探しに行くなど、書架回収の頻度が違いますが、現在のシステムでは、帳票を出力するときに、頻度の違いに応じたカスタマイズが可能なのでしょうか。

また、自館の図書館システムで付与した依頼館の利用者ID（バーコード番号）まで帳票印刷できますか。

回答（豊田氏）：

相互貸借の依頼を受けた情報を一覧として打ち出す機能がありますので、書架回収のためのリストとして利用することは可能です。これをカスタマイズできるかどうかは、導入時にどのような情報が必要かをご相談させていただいてからとなります。パッケージとしては、最低限必要な情報として、書誌情報と各図書館から入力された依頼情報があります。バーコードの情報等については、各図書館から相互貸借を依頼する際に、個別の書誌

や資料情報を指定して依頼情報を作っているわけではないので、そこまでの取り込みはできていません。実際に依頼を受けたときに、各図書館で依頼情報に貸出処理した資料のバーコード番号を登録しておく、返却時にそのバーコードを読み取るだけで、相互貸借のシステムが更新されて借受終了、という処理を一括で行うということはできますが、帳票上にその資料番号までの印字はできません。

今のところ、各館の業務システムのパッケージが当然違い、連携していないので、各館の ID を取り込むところまでは考慮されていません。

質問：「おうだんくん」で、現在貸出中の資料に相互貸借の依頼をする場合、ダイレクトでできるのか、それともデータだけ受け取って、各館が手入力に対応するのかどうか教えてください。

埼玉県の場合、貸出中の資料には、横断検索からそのまま予約をすることができますが、そういったことは可能かどうか知りたいと思います。

回答（豊田氏）：

現在導入していただいているシステムは、「おうだんくん ILL」から相互貸借の依頼データを定期的に収集し、静岡県立図書館の業務システムに予約として取り込むという処理を行っています。

県立図書館に関しては、「おうだんくん ILL」の依頼に対して、何かしらの変更登録ということは、よほど個別のデータに関する依頼が来ない限りは必要ありません。さらに、業務システムで返却処理をした時点で「おうだんくん ILL」の借受も終了する処理を行っているので、基本的な操作はすべて業務システムのみで完了します。

これをすべての館の業務システムのパッケージにまで対応できるようにする、というところまでは至っていませんので、県立図書館の業務システムでは実際に実現してはいるが、すべての図書館で、というわけではなく、必要に応じて個別に「おうだんくん ILL」にデータを入力していただいているのが現状です。